

日程：2013年11月2日(土)～11月9日(土) 成田→デトロイト→ラスベガス→成田

参加者：18名 (APARA、JAAMA、JACA、JASMA、NAPAC 5団体より参加)

ツアー：2006年から毎年実施している SEMA ツアーも今年で8回目を迎えました。

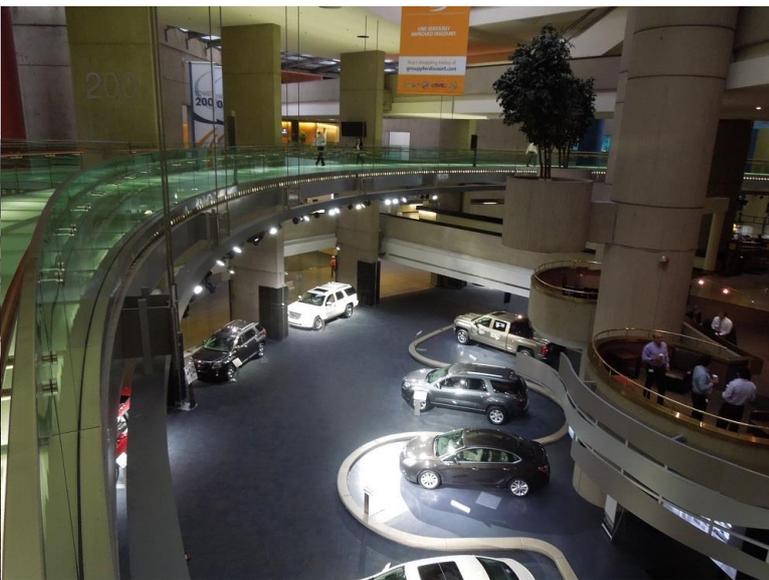
今回の SEMA ツアーはこれまでの西海岸コースから東海岸コースへ変更し、
米国自動車産業発祥地デトロイト視察に焦点を当てた企画を立てました。

「デトロイトの盛衰、そして希望」

デトロイト市がアメリカ連邦破産法第9条による保護を申請したことは既にメディア等で報じられました。

しかし立ち直るのも速い米国自動車メーカー、

今年に入り自動車生産及び売上はリーマンショック以前に戻ったようです。



- ・GM 本社ビル「GM ルネッサンスセンター」デトロイト市の中心にあります、マリオットホテル、日本領事館も入っています。
- ・吹き抜けの GM 車ショールームが入っています。

・在デトロイト日本国総領事館 訪問：野田首席領事と西脇団長

2013年10月の新車販売台数は繰延需要、低いガソリン価格、低金利ローン等により、政府一時閉鎖にもかかわらず、前年同月比10.6%増、特にデトロイト3が好調であり、車種別販売台数では、PicUpトラックが上位3位までを独占。

住宅と PicUp トラックが売れる事は景気が良くなった証拠と教えて頂きました。



「デトロイト市内」

デトロイト市内は空きビル・空き家が多く かつて住んでいた富裕層、白人は郊外に移動し 低所得者層、黒人が中心部へと移り込むという逆転現象の町です。
ようやく町の復興作業が動き始め 以前のニューヨークが復活したように
デトロイト市内に人が戻る復活へのスタートが始まったようです。



ミシガン中央駅は 1913 年に設立された 18 階建てのビル駅です
建設当時は世界で最も高い鉄道駅として有名になりました。
1975 年に国家歴史登録財に指定 しかし 1988 年に閉鎖され
今は観光名所になっています。



「ヘンリー・フォード博物館」

エジソン学会(Edison Institute)が管理・運営するヘンリーフォード博物館は
(正式には “ヘンリーフォード博物館とグリーンフィールドビレッジ:Henry Ford Museum and Greenfield Village)
アメリカ最大級でミシガン州メトロ・デトロイトエリアに属する、ディアボーンの博物館複合施設であり、
アメリカ合衆国国定歴史建造物に指定されている。



広い・でかいの一言につきる博物館！ 自動車だけでなく、鉄道、航空機
蒸気機関・発電機、ファニチャー、生活文化等のコーナーが有り ゆっくり
見ると1日が必要となる。更に博物館の外(反対側)にグリーンフィールドビ
レッジが有り、こちらも見学には半日以上の時間がかかるようです。



上: D51 が SL 王者と思っていた事自体が恥ずかしく思えました。
C&O 鉄道の「アレゲニー・Allegheny」No.1601 号 D51 の 2 倍以上！
左: FORD Model-T Sedan 1916 年 (T 型フォードセダン)

右：自動車殿堂(Automotive Hall Of Hall)に
1989年 本田総一郎が殿堂入りしている。
CVCCエンジンの開発を主導、シビックに搭載し1970
年代の米国排気ガス基準を満たした最初のメーカ
ー車は HONDA S800 が展示してある。



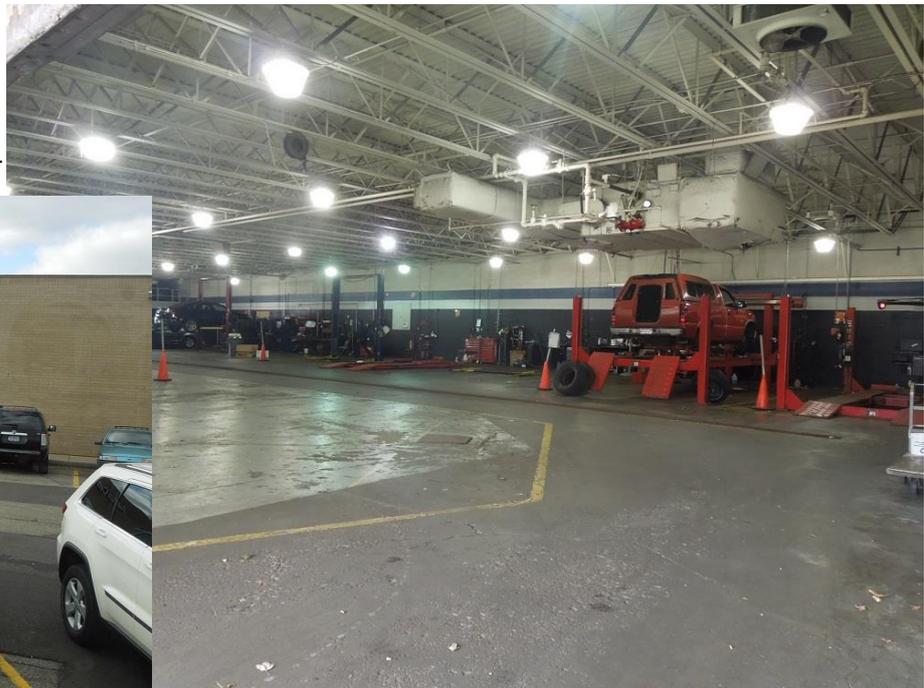
上：FORD は自動車だけでなく航空産業へも
拡大していた。特に第2次大戦中は国の指定
工場となり鉄鋼に関するものは何でも生産した。
写真は Douglas ダグラス DC-3 機

右：自動車殿堂(Automotive Hall Of Hall)にて
ツアーメンバー 集合写真



「小売店舗クリニック」

・シアーズ・オートセンター Sears Auto Senter
庶民デパートとして有名なシアーズのオート部門
パーツ販売だけでなく ピットも備えており
タイヤ交換から整備までこなします。
朝会社へ行く前に車を預け夕刻に引き取りに来ます



・アドバンス・オート・パーツ Advance Auto Parts

米自動車部品小売り2位

関係筋によると、アドバンス・オートによるゼネラル・パーツ・インターナショナルを 20 億ドルで買収する計画で、実現すれば補修部品市場(アフターマーケット)で Auto Zone を抜き北米最大の自動車部品プロバイダーが誕生する。

パーツ&アクセサリーの販売のみで Pit サービスは無く、駐車台数も 10 数台と狭い小型店である。



・オライリー・オートモーティブ O' Reilly Automotive

NASDAQ: ORLY

全米にチェーン展開するオートパーツの小売店舗である。

典型的な DIY 向け倉庫型販売店舗となり低価格訴求をベースにパーツとアクセサリーを販売しておりメンテナンスやバッテリー交換修理等のサービスは一切行なわない。

ライバルは

- 1、オートゾーン Auto Zone
- 2、アドバンスオート Advance Auto Parts

・トレーダー・ジョーズ Trader Joe's

トレーダー・ジョーズ(Trader Joe's)は、ロサンゼルス郡を本拠とする、アメリカ合衆国のグロサリー・ストア(食料品スーパーマーケット)チェーンである。現在では、グルメ・フード、オーガニック・フード、ベジタリアン・フード、輸入食品、

各種ワイン、ユニークな冷凍食品も品揃えし、いわゆる「グルメ・スーパーマーケット」と呼ばれる

比較的高級志向の食料品小売店に分類されているが、中間流通を省くことによって価格を抑えている。



・ダンニング・トヨタ/DUNNING TOYOTA

複数のオートディーラーの集まるアナーバー通りにあるトヨタディーラー、トヨタと若者向けのサイオンブランドを取扱う。併設した棟でスバルディーラーも展開。日本人スタッフによる日本語デスクも備え対応している。

副社長兼ゼネラルマネージャーのジョンFテイラー氏の説明によると 従業員数126名、メンテナンスサービス3500台/年 パーツストック2500万円。

・「フォードリバー・ルージュ工場見学 Ford Rouge Factory Tour」

・1916年に、ヘンリー・フォードが建設した巨大工場。

・最大の特徴は工場内に高炉を所有していたこと。そのため、鉄鉱石を運び込んでわずか28時間後にT型フォードを出荷することができた。

この記録は現在も破られていない。

・高炉を建設した理由として、内製化により効率化を図ったほか、当時バナジウム鋼を生産できる製鉄所がなかったことが挙げられる。全盛期には、この工場は120,000人の従業員を抱えていた。初期にはフォード・モデルTを、また1960年代にはフォード・マスタングを生産していた。

現在はPicUpのF150を生産しており生産ラインを見学用に公開している。



上: 1916年の工場の面影は無く、現在の工場は最新式にリニューアルされている。



「Rouge Factory Tour・工場見学ツアー」は2時間かけて最新型ピックアップトラックのF-150の生産ラインを、出来上がるまでを見るコースとなっている。スタートは3D映像のホールから説明を受けるが、コレが凄い！大阪のUSJ（ユニバーサルスタジオ）スパイダーマンを思い出したように風や雨（霧）を吹き付けてくる仕掛けがワクワク・ドキドキから始まるところが凄い。流石FORD！

続いて見学棟の最上階からフォード社の歴史からはじまりルージュ工場の特徴等の説明を受けてからいよいよ生産ラインへ移動します。

工場内の写真撮影は禁止なのでライン行程は紹介できません。ピックアップトラックのF-150はアメリカ国内のベストセラーの座を守り続けFORD車全体の約30%を占める稼ぎ頭。



- ・左 : F150のシャシー V8エンジンが搭載されています
- ・左下: 最新型のF150



「SEMA SHOW 2013 Las Vegas 視察」

デトロイトの日本領事館で自動車メーカーも消費者も元気が良いというニュースを聞いていたが、ラスベガスの SEMA ショー会場はそれを肯定するかのように人・人・人の洪水でした。それを裏付けるようにホテルと会場の交通手段のモノレールが入場制限をするなど人が増えていました。



上: 人も車両も増えています。

左: 中央イベント会場

FORD がマスタングでドリフト走行を披露していました。
カラーリングは「エナジードリンク Monster・カラー」
フォーカスのレース使用も準備していました

一時展示台数が減った日本車も元気になってきました。日本では「TOYOTA・86」、アメリカでは SCION サイオンブランド「SCION・FR-S」で販売されています。この FR-S の展示車両が多いこと！アメリカでの人気に分ります。



「SEMA 本部との交流:ロビー活動」

・Linda Spencer: SEMA インターナショナル・シニアディレクター

・Elizabeth Couch: 米国商務省国際貿易管理官

リンダスペンサーより米国内の景気が上向きに伴い、今年のSEMAショーの参加企業及び客数が伸びている事の説明を受ける。SEMA ショーのカスタマイズ、これからのドレスアップはファッションショーとってください。新しい需要が生まれます。

西脇団長より中国(上海・北京)ばかり訪問しないで、たまには日本へ顔を出して欲しいとのコメントに苦笑い！

今後も SEMA と AAAL の交流を続ける事を約束して別れました。



「クライスラー Chrysler・FIAT」

FIAT 傘下に入ったクライスラーであるが、米国での FIAT ロゴの使い方はきわめて慎重に感じた。販売車種も FIAT500 のみでおとなしい。

この「FIAT チンクチェント・FIAT500」がデトロイトでもラスベガスでも街中で走っているのを良く見かけた。デザインがアメリカ人に受けているのであろう。



左: 新型 FIAT500・L

通常の FIAT500 より二周り大きい5ドア・クロスオーバーボディとなって登場。エンジンも 1.4リットル ツインエア(ターボ)エンジンで 160hp馬力を発する。日本では未発表なので楽しみな車である。



「ヒュンダイ:Hyundai Motor」 韓国車:Hyundai が米国市場をシェアアップ！

今回デトロイト及びラスベガス在住の日本人からクルマの話をしている中で東と

西と距離が離れているにも関わらず同じ意見がありました。韓国のヒュンダイが売れており、質・デザインは日本車以上の所もある。一体日本メーカーは何をしているのか？このままだとヒュンダイにシェアを奪われてしまうだろう。新型ソナタのデザインはカムリ、アコードより洗練されてカッコ良い。等の辛口コメントをもらいました。

ココ SEMA 会場でもジェネシス・クーペとヴェロスター・ターボが多く展示してあり日本車と変わらぬデザインは受けていました。



「Las Vegas Valley Automall(バレーオートモール)」

ラスベガス近隣で最大のオートモール

18のディーラー及び24のブランドが集積されたオートモール。バレーオートモールは、ラスベガスの隣町であるヘンダーソン市に立地しラスベガスのストリップから東南に約20マイル(約30キロ)に位置するラスベガス近郊では最大の車ディーラー集積地区となる。現在では南ネバダでは最大のオートモールまでに成長した。このオートモールという形式はアメリカ人のクルマ購入方法に非常に適していることがその成長の要因の一つとなっている。

18も数あるディーラーの中から、今回はFORDグループのリンカーンディーラー「Findlay Lincoln」に行ってみた。



リンカーン・MKZ (Lincoln MKZ) は、フォード・モーターが同社の高級車部門にあたるリンカーンブランドで製造・販売している中型高級セダンである。日本市場への導入は行われていない。メカニズムは刷新され、従来の 3.7L・V6 に加え、フォード・トラス等で採用済の 2.0L エコブースト、更に 2.0L HV ハイブリッドまでが追加されている。



更に特徴として、量産車世界最大面積を誇る「リトラクタブルパノラミックルーフ」が挙げられる。ルーフ部分全体がポップアップして後方へスライドする仕組みであるが、ルーフそのものがキャビン全体を覆う巨大なガラスとなっている。このセールスマンはフレンドリーそして親切で、我々が旅行者と分かっていてもエンジンをかけて見せてくれたり、電動パノラミックルーフをスライドさせて運転席に座らせていただいた。サンキューでした。

「まとめ」

初の米国東部都市デトロイト、広く・大きなアメリカを感じました

日本車が少なく、アメ車(デトロイト 3)が多い

交通インフラが自家用車しかないこちらではクルマの依存、生活必需品として重要道具なのです。

デトロイトのガソリン価格は 1 ガロン/\$3.50 = 3.8ℓ/¥350 = ¥92/ℓ 1リットル¥92 円です。

日本の約半額 という事は、遠出(高速)で 10 キロ/ℓ、街中で 5 キロ/ℓ 走れば良いという考えが自然と出てきます。

更にデザイン、サイズ限定の HV 車やダウンサイジングエンジン搭載車への選択肢が遠のきます。

すなわち V8 ピックアップトラック、SUV、中型以上のアメリカンビッグセダンが売れる理由が理解できました。

しかし着実に省エネ小型化への波がアメリカへも押し寄せています。

ポリスカーとして長年使用してきた FORD クラウンビクトリアが生産中止となり FR 方式が無くなります。次はコンパクトで雪道に強い FF 車になるそうです。クラウンビクトリア別ブランドのグランドマーキュリーも販売中止、しかもマーキュリー部門が廃止になりました。FORD 高級ブランド リンカーンもビクトリアと同じリンカーンタウンカーを中止しリンカーン・MK シリーズに代わり徐々にエンジン、ボディの小型化が進行しています。

まだまだ報告したい事が沢山あるのですが、紙面の関係上報告はこの位にさせていただきます。

今回ツアー準備等にご協力していただいた

アメリカ大使館商務部 厚東様、在デトロイト日本国総領事館 野田様 高瀬様 ありがとうございました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。



以上

米国自動車販売の現状

2013年10月の米国新車販売台数

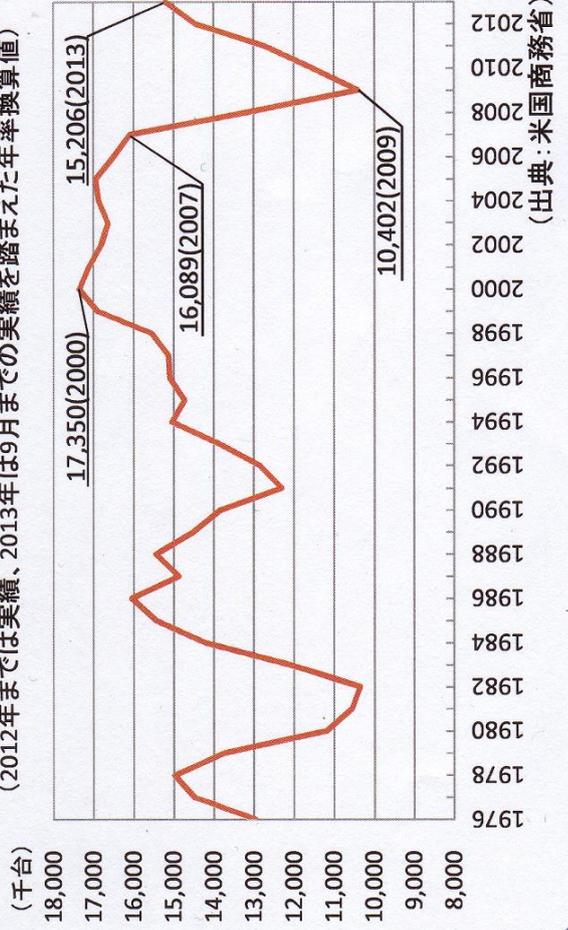
	販売台数	前年同月比	市場シェア
GM	226,402	15.7%	18.0%
Ford	191,267	13.9%	16.0%
Toyota	168,976	8.8%	14.4%
Chrysler	140,083	11.0%	11.5%
Honda	114,538	7.1%	9.8%
Hyundai-Kia	93,309	0.6%	8.1%
Nissan	91,018	14.2%	7.9%

(出典: Autodata)

- 2013年10月の新車販売台数は、繰延需要、低いガソリン価格、低金利ローン等により、政府一時閉鎖にもかかわらず、前年同月比10.6%増と好調。
- 特に、デトロイト3が好調であり、車種別販売台数では、ピックアップトラックが上位車種3位までを独占。
- 10月時点での市場シェアは、米国勢:45.7%、日本勢:37.1%、韓国勢:8.1%。
- エコノミストによれば、11月及び12月も引き続き好調で、本年の自動車販売台数は1550万台又はそれ以上(リーマンショック前の2007年来の最高値)となる見込み。

米国新車販売台数の推移(1976~2013)

(2012年までは実績、2013年は9月までの実績を踏まえた年率換算値)



米国自動車市場シェアの推移(1999年~2013年10月)

